

# みみよう幼稚園だより



平成31年2月号 \*\*\*\*\*<http://mimyo.org/youchien/>

## 感謝、感激の生活発表会！

びっくりするような雪の日でしたが、青少年センターのステージには子どもたちの可愛い元気いっぱい表現があふれ、観客席からの熱い応援！「雪は豊年の瑞（しるし）、五穀の精」と言われているとおりの豊かな豊かな生活発表会を開催することが出来ました。何よりも緊張しながらも一生懸命頑張った子どもたちいつも温かく応援して下さいますご家族の皆さんのお陰であると心より感謝しています。本当にありがとうございました。そして、子どもたち一人ひとりの個性や思いをどう伸ばし、どう実現していこうかと毎日みんなで時間をかけて話し合いながら考え工夫してきた先生たちの明るく熱い努力があったことも付け加えさせていただきたいと思ひます。みんなみんなに感謝、感激です。  
(園長 三上)

### 『褒め上手への道』

主任 金田 真之介

「お母さん！○○くん、発表会がんばったね。たくさん褒めてあげてくださいね。」発表会を終えたあと、先生たちが嬉しそうにお話している姿をたくさん見ました。そして、お家の方がたも子どもたちの思いを受け止め様ざまな言葉でお話されたのではないのでしょうか。みなさんは、これまでの育児の中で、【褒める】ということをどのくらい意識されてきたのでしょうか。

子どもたちは体験を通して、様ざまな気づきや手ごたえを感じます。①「何ともいえないけど気持ちいいな」など言葉では表現できない満たされた感覚『充実感』②「なるほど」「わかった」「できそうだな」などを支える感覚『達成感』③「前よりもうまくいったぞ」などと自分の成長を実感する『自己有能感』④「みんなでやると楽しいな」「友だちと一緒によかった」などの協同性を実感する感覚『一体感』このような手ごたえのある感覚を心理学用語でポジティブ感情と言います。

大人は経験が豊富であればあるほど到達点（結果）を知っています。よって自然と何事も結果に重きを置きがちになり、「合っていた」「間違えなかった」という視点で褒める傾向があります。しかし、幼児期の子どもたちにとっては状況にもよりますが、結果を褒められるよりもポジティブ感情に共感しプロセスを褒められることで、「もう一度挑戦しようかな」「次はこれをやってみよう」など、次への行動の意欲に繋がります。そして、このようなポジティブ感情を繰り返し経験することによって、小学生になってからの、学びに向かう力の土台が培われていきます。

幼稚園の先生たちは常日頃から、子どもたちの頑張りを間近で見えています。また、様ざまなプロセスや心の動きを感じ取っているからこそ、子どもたち一人ひとりをわが子のように「たくさん褒めてあげてくださいね」とお家の方に伝えていきます。もちろん子どもたちにはお家でしか言えない本心があり、お家の方にこそ認めてほしいという思いが一番です。「○○くん！隣のお友だちがセリフを言う時、お友だちがドキドキしないように必ずそばへくっついてあげてたね。○○くんのそんな優しいところお父さんとっても嬉しかったよ。」褒め上手、小さなことから一歩ずつ始めていきませんか。



『子どもは大人の真剣なメッセージを待っているし、また十分に受け止める感受性もあります。』

一手塚治虫（1928年～1989年）